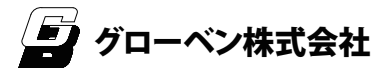


施工説明書



プラド：フェンス

板塀フェンス縦貼り
両面:大和/片面:立板仕様ー共通

この度はプラドフェンス：縦貼仕様をご購入頂きありがとうございます。
ご使用前に本書をよく読み、下記の注意事項を守りご使用下さい。
また、本書は大切に保管しておいて下さい。
万一不具合、不明な点がございましたら、弊社までお問合せ下さい。

本施工説明書は、「縦貼仕様：両面/片面共通」の説明書です。
「横貼仕様：連結ジョイントあり/連結ジョイントなし」とは異なります。

日常ご使用して頂くお客様へ



- ◆樹脂製の板材は熱膨張により伸縮が発生します。
製品上の特性として、ご理解ご了承下さいますようお願い申し上げます。
- ◆日常のお手入れ、清掃には溶剤などは使用しないで下さい。

取付工事担当者様へ



- ◆設置前に梱包内容の過不足、破損の有無をご確認下さい。
- ◆取扱説明書に記載してある施工手順、方法を守って取り付けして下さい。
- ◆この説明書は、工事完了後に必ず管理者様、施主様
(日常のお手入れが可能な方)にお渡し下さい。
お手数をお掛けして申し訳ございませんが、よろしくお願い致します。

別途ご用意して
頂く必要のある物

- ・インパクトドライバー
- ・掘削用の各種工具
- ・柱固定用のモルタルやコンクリート
- ・水平器などの各種工具

— 庭にもっと快適を —



本社

〒455-0025 名古屋市港区本星崎町字南3998-31

TEL:052-829-0800 FAX:052-829-0801

Email info@globen.co.jp

取扱説明書に記載する表示について

本書には安全に関する重大な内容を表記してあります。
表示と意味は以下のようになっております。



警告

- ・柱ピッチは、2,000mm 以下にして下さい。
- ・部材は熱によって伸縮します。板材同士を隙間無く突き付けて設置しないで下さい。
- ・建物など構造物へ突き付ける場合には、10mm 以上間隔をあけて下さい。つなげて取り付けると熱膨張などにより、板材が変形、破損する恐れがあります。
- ・板材は熱によって伸縮します。板材同士を突き付けて設置しないで下さい。
- ・板材を一時保管する場合は、直射日光や風雨にさらされないような場所で、立て掛けて保管しないで下さい。
- ・電動ドライバーを使用する場合は、トルクを弱にし、締め付けすぎないようにして下さい。
- ・ビス留めする場合はあらかじめ余裕穴をあけて取り付けてください。
- ・アルミやプラスチックの切り屑は、自治体の条例に従って処理して下さい。
- ・フェンスに布団や重量のあるものをかけないで下さい。
- ・事故や故障の原因となりますので、改造、仕様変更はしないで下さい。
- ・破損や事故の原因となりますので、製品によりかかったり、ぶら下がったり、ボールをぶつける等、強い衝撃をあたえないで下さい。
- ・本製品は隣地との境界を目的に設置するものです。転倒防止を目的とした防護柵、歩行補助を目的とした手すり等として使用しないで下さい。
- ・製品の汚れは、必ず真水にて洗浄して下さい。ガソリン、シンナー等石油系溶剤や、薬品等で拭いたり、洗浄することは絶対にしないで下さい。



注意

- ・施工寸法に合わせて支柱部材、基礎寸法を選定して下さい。
- ・フェンス板材は外気温度により伸縮します。組み立て説明書に従い、寸法変化に追従する固定方法にて施工して下さい。
- ・人工板材は主として板塀（板フェンス）などでエクステリア用に開発、製造された製品です。本来の目的とは違う用途で使用しないで下さい。
- ・板塀（板フェンス）は風当たりの強い所や、地盤の弱い所で使用する場合は、必ず控え柱が必要となります。
- ・アルミ材等の小口や製品の切り口には切断時のバリが残ります。怪我をする恐れがありますので、取扱には充分気を付けて下さい。
- ・プラスチック（樹脂製品）は一般金属と比べ、熱変形温度が低く（約80℃～95℃）、さらに引火の恐れもありますので火気の近くや、高熱を発生する所では使用しないで下さい。
- ・プラスチック（樹脂製品）は温度差により伸縮します。違う材質と固定する場合、必ず製品に余裕穴をあけ固定して下さい。
- ・アルミ支柱の中にコンクリートやモルタル等を流し込まないで下さい。またアルミ支柱を固定する場合、コンクリートの急結剤などは使用しないで下さい。
- ・板塀（板フェンス）は骨組材で強度を持たせています。板材をハンマーで叩いたり、はしごをかけたりし、一点に衝撃が加わりますと、破損事故の原因となります。絶対に行わないで下さい。
- ・凍結防止の為、水抜き穴をあけて下さい。また、アルミ柱の中にスチロール等を入れ水が溜まらない様にして下さい。
- ・各製品のデザイン、価格等は予告無しに変更する場合があります。
- ・製品の特性上本製品は色差・色ムラがあります。

お手入れ

- ・普段のお手入れは、濡らした布でふき取って下さい。
- ・汚れがひどい場合は、中性洗剤を薄めてご使用下さい。
- ・表面のホコリ等は、柔らかいブラシ等で払って下さい。

取り付けの前に

- ・板部材は約 L2000mmです。設置の際は、板同士のすき間を5mm以上確保して、柱ピッチが2000mm程度以内に収まる様に必要に応じカット加工して下さい。(板サイズには若干誤差があります。)

*板部材には±5mm程度の寸法誤差があります。また、気温によって伸縮する場合があります。

- ・製品特性上、板材のたわみが大きくなる場合があります、予めご了承下さい。
- ・夏季の高温時や設置場所によって、板材が大きいたわむ可能性があります。
- ・オークブラックの板材は他の色に比べて、伸縮が大きくなる場合があります。

使用する柱のサイズ

40角柱：～H1200まで
60角柱：H1201～H2000
75角柱：H2001～H2400

*ブロック上に設置する高さは、H1200程度を上限としています。60角の中へ40角スチール中芯を入れて下さい。詳細はお問合せ下さい。

推奨埋め込み深さ

～H1199：埋め込みL300
H1200～H1399：埋め込みL400
H1400～H2000：埋め込みL500

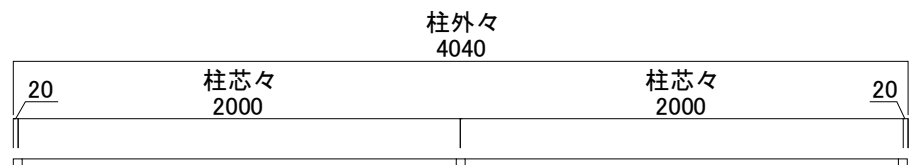
柱ピッチ

柱芯々 2000mm以内を基準として下さい。

横棧胴縁ピッチ

上下の間隔を 550mm 以内として下さい。

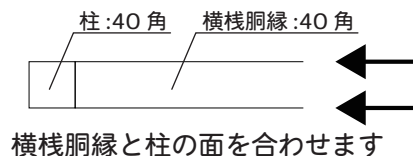
柱ピッチ図 40角柱の場合



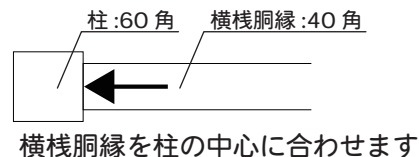
*柱60角の場合は、2スパンで柱外々4060です

拡大断面図 横棧胴縁位置

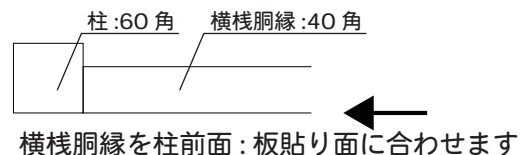
- ・40角柱を使用した場合



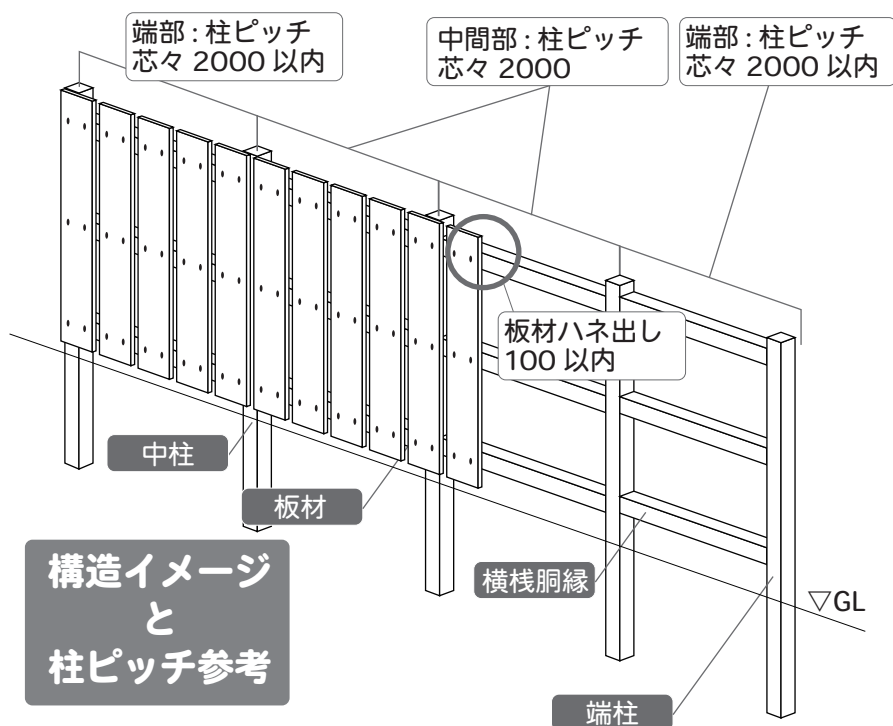
- ・両面：大和仕様
60角柱を使用した場合



- ・片面：立板仕様
60角柱を使用した場合



柱を立てる



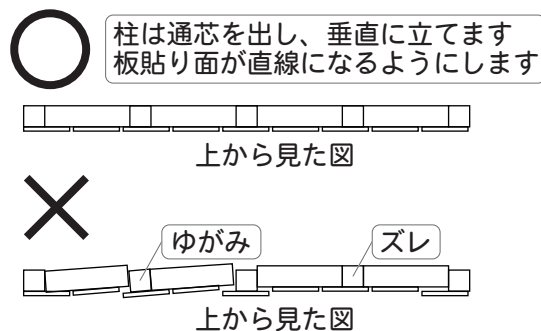
左図の各注意事項を読み、柱設置の予定位置に穴を掘り、柱をキャップの付いている面を上にして、垂直に立てます。コンクリートを流し込み、しっかり固定します。

※柱ピッチは 2000mm 以内
※必要に応じて、水抜き穴を開けて下さい。

※コンクリート急結剤は使用しないで下さい。

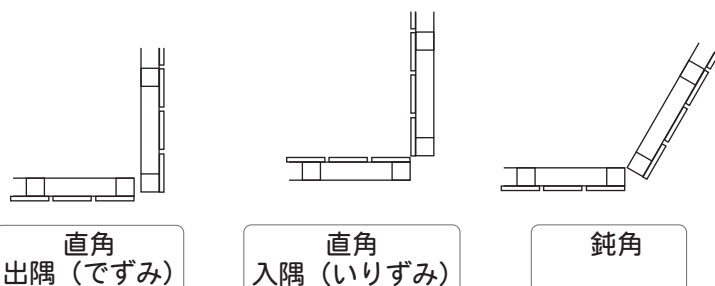
- ・部材の切断には電動工具を使用し、端部の欠けにご注意下さい。
- ・ビス固定する前に 6.5φ の下穴をあけて下さい。

柱の通り芯 良い例 悪い例



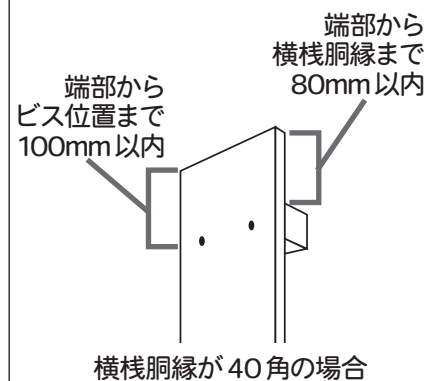
コーナー 連結の 収まり

コーナー部分の柱収まりは、下図を参考にして下さい。樹脂製の板材は外気温により伸縮するためすき間を 5mm あけて下さい。



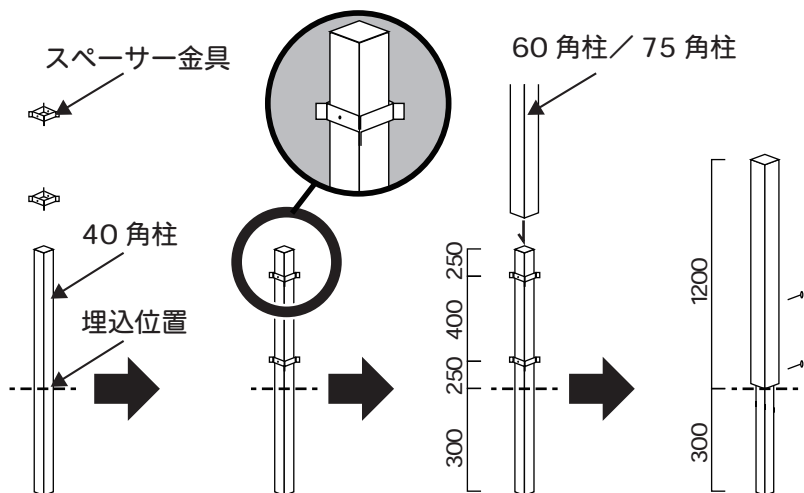
板材のハネ出し (出っ張り)

板材端部の飛び出す長さは、横棧胴縁の中心（ビス固定位置）から 100mm 以内として下さい。



柱を立てる + 横棧胴縁

ブロック上設置 40角中芯柱を入れる場合

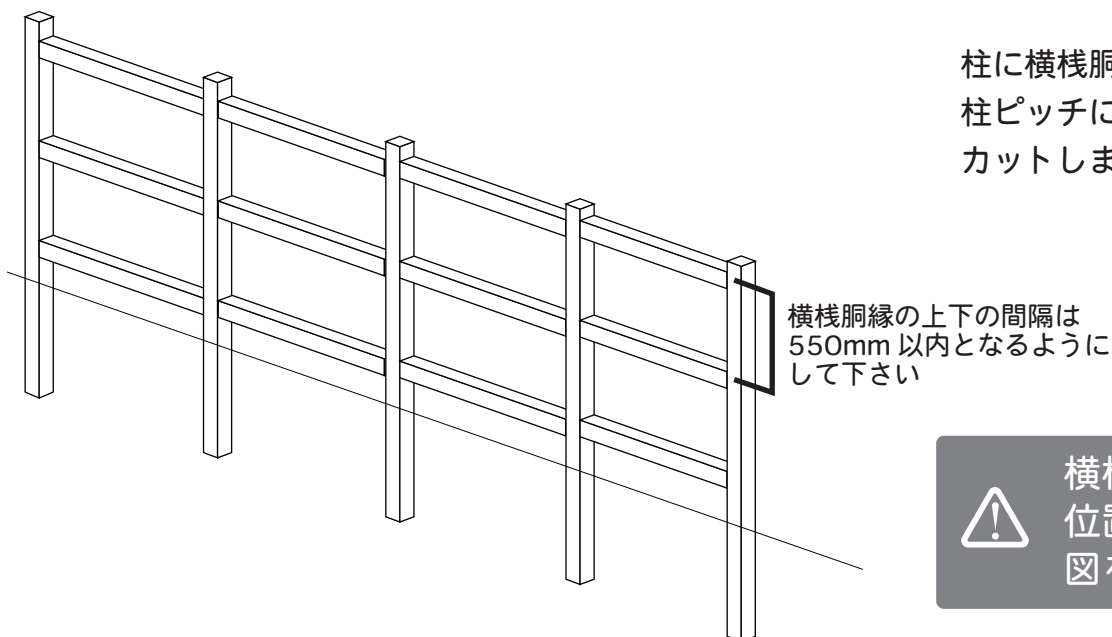


40角スチール柱にスペーサー金具を2個ビスで取り付けします。(金具1個に付属のブロンズナベビス2本)
上から60角(75角)柱をかぶせます。ガタつきがありますので、下穴を空けて2~3箇所ビス止めをします。



左図はH1200時の参考寸法です。現場にて調整して下さい。

ブロック上以外の設置は、そのまま埋め込んで下さい。

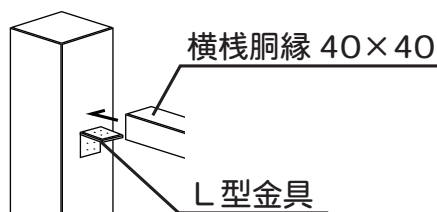


柱に横棧胴縁を取り付けます。柱ピッチに合わせ、横棧胴縁をカットします。

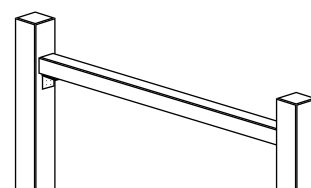


横棧胴縁の前後の位置は3ページ下の図を参照下さい

横棧胴縁の 取り付け



L型金具を柱へ先に取り付けます。



L型金具と横棧胴縁を取り付けます。

板材固定

取り付けの 前に

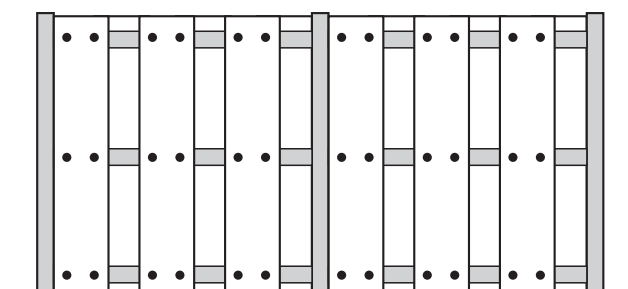
縦貼仕様は両面、片面の2種類を選んで取付ける事が出来ます。板材の取り付けは以下の点に注意し、両面と片面を選んで行って下さい。

両面：大和仕様

骨組：柱芯（=中心）に横棧 40 角を合わせ L 金具で固定します

板材：横棧へ均等で交互に貼り付けします

外観：柱が表裏共に見えます



略図

間柱

表面からは柱が見えます

横棧あり

表裏両面からアルミ骨組が見えます

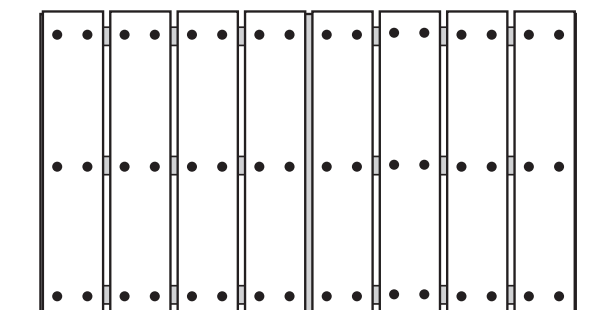
詳細は
7 ページ

片面：立板仕様

骨組：柱前面に横棧 40 角を合わせ L 金具で固定します

板材：柱前に板を貼り付けします

外観：表面は柱が見えない仕上がりです



略図

裏面柱

表面からは柱が見えません

横棧あり

裏面に横方向のアルミ骨組があります

詳細は
8 ページ

板材固定に関する注意事項

下穴の位置出しには別売の穴加工工具をお使い下さい

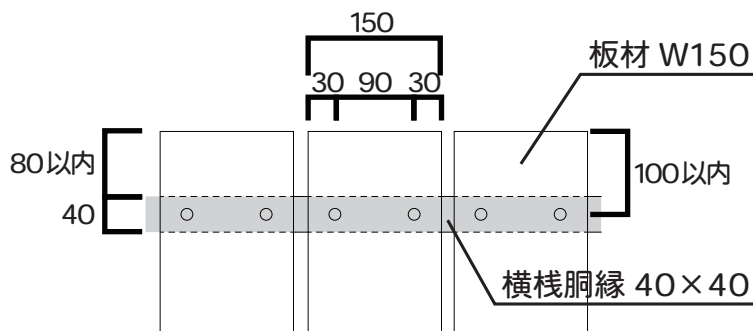
下穴



板材の固定前に

必ず **6.5φ** 程度の
下穴をあけて下さい。

板材端部の推奨穴位置

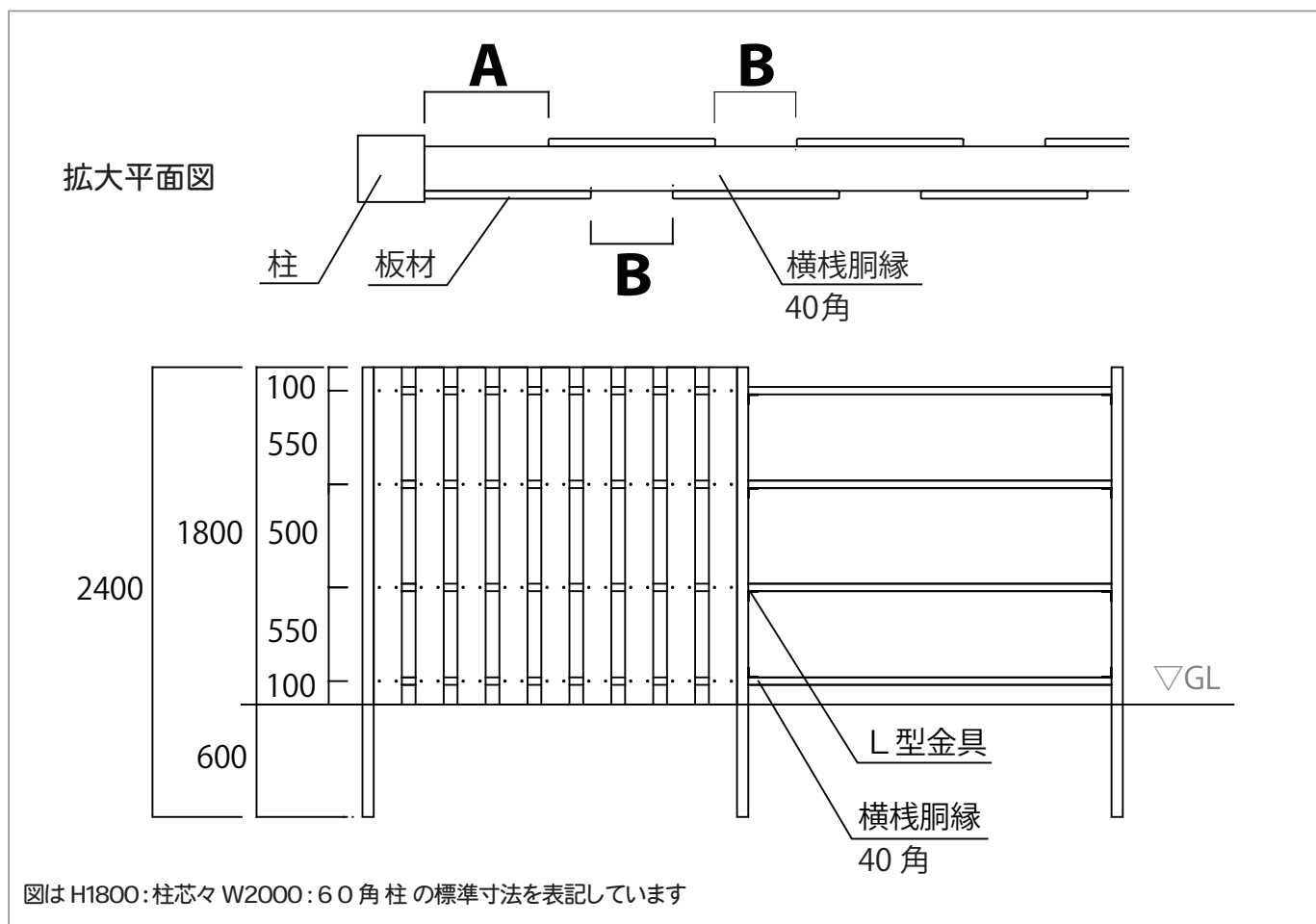


両面：大和仕様

骨組：柱芯（＝中心）に横棧胴縁をL金具で固定します

板材：横棧へ均等で交互に貼り付けします

外観：柱が表裏共に見えます



目安寸法

柱太さ	柱芯々	柱内々	A	B	板材の枚数:合計(表/裏)
40角	2000	1960	113	76	17枚 (9/8)
60角	2000	1940	112	74	17枚 (9/8)

※柱ピッチや板材同士のすき間などの寸法は現場に合わせて調整して下さい。



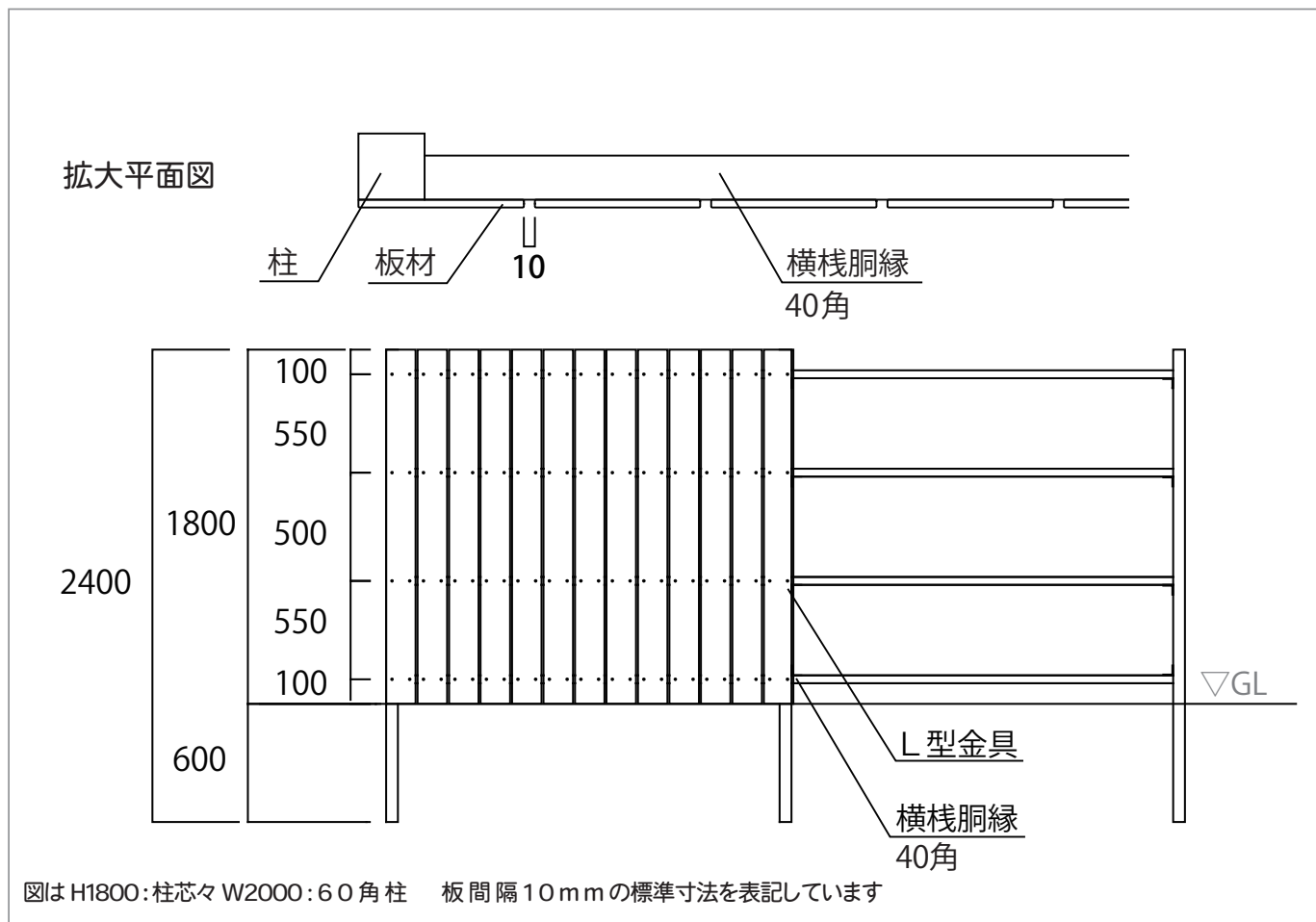
- 板材固定の前に下穴 6.5φ以上をあけてから取り付けして下さい
- 胴縁ピッチは最大 550mm 以内にして下さい
- 板材のハネ出しは最大 100mm 以内にして下さい
- W2000 あたりに貼る板材の枚数は 18 枚までとして下さい
- 板材同士の間隔はお好みで変更して下さい

片面：立板仕様

骨組：柱前面に横棧胴縁をL金具で固定します

板材：柱前に板を貼り付けします

外観：表面は柱が見えない仕上がりです



目安寸法①

柱太さ	柱芯々	柱内々
40角	2000	1960
60角	2000	1940

目安寸法②

板間隔を均等に取り付ける場合は別売のスペーサーをお使い下さい

板材同士の間隔	板材の枚数
10mmの場合	約14枚
20mmの場合	約13枚

※柱ピッチや板材同士のすき間などの寸法は現場に合わせて調整して下さい。



- 板材固定の前に下穴 6.5φ以上をあけてから取り付けして下さい
- 胴縁ピッチは最大 550mm 以内にして下さい
- 板材のハネ出しは最大 100mm 以内にして下さい
- W2000 あたりに貼る板材の枚数は 18 枚までとして下さい
- 板材同士の間隔はお好みで変更して下さい